

船と屎尿（しにょう）

今日は、多少臭いそうな知識を紹介する。「屎尿（しにょう）」について、舟艇協会の会誌N o 7 8（2 0 0 3. 6）の舟艇随筆に掲載された船越卓氏のミニ知識紹介である。（以下引用）

【屎尿】

辞書を引くと、尿は小便、尸（し；人体）と水の合字とあります。

屎は大便、尸と米の合字であります。

見るからに美しい印象ではない文字です。

しかし、いずれも人間の生活上欠かせない水と米の変形です。

屎は一般に糞と書き、なるほどうなづける文字です。

【艦と屎】

今は昔の話ですが、軍艦で勤務していた頃、停泊中に朝のすがすがしい空を眺めながら、ふと海面を見ると、堂々たる一物がプカリプカリと浮いているのが目に入りました。

官の舷側にはいくつか逆止蓋のついた污水管があり、時折ジャーという音と共に一物が飛び出してくるのでした。現在ではもう見られない光景です。

【漁船と屎】

これも昔話ですが、40～50トンの漁船の船尾には四角な箱型の便所が張り出して装着されていました。船員はそこにしゃがんで用を足したものです。これも海洋汚染防止のため禁止されました。

【屎尿運搬船】

古い話ばかりですが、大きな運搬船が東京湾から屎尿を満載して、太平洋何海里か沖に出て廃棄していたのも昭和30年代までだったのでしょう。

【屎あれこれ】

昔は人糞が農家の肥料として重要なものでありました。私も第二次大戦後は、畑作りをして、それが大いに役立ち、子供達を育てたものでした。

それとは別に、動物の糞にはいろいろ役立つものがあります。例えば、鶏は無数の卵を提供した上、その糞はよい肥料として花屋の店頭でも売られています。

うぐいすの糞は昔、女性が美顔用に用いたものです。

今日では、町中には牛や馬が居ませんから、馬車や馬力の馬の放尿放糞のなつかしいしかも面白い風景は見られませんが、昔は「バケツ」を用意していた光景もありました。代りに犬猫の人迷惑な光景がなくなりました。

【屎あれこれ】

尿には愛嬌なところがあります。大人の立ち小便には顔をそむけますが、幼児の「おしっこ」にはほほえましい姿がみられます。

昔、支那では、秦の始皇帝は長寿を願って子供の尿を飲んだと伝えられています。これは尿には有益なホルモンが含まれていると解されたからでしょう。現在でも己の尿を飲ん

でいる人がいます。ちなみにホルモンは漢字で書くと「覚醒素」となります。私は自分の尿を飲む気にはなりません。

【尸（し）という字】

尸という字は、何を意味するでしょう。いろいろな意味があるようですが、前掲のような「人」でもあり、「死骸」「しかばね」の意味もありますが、もう一つには「ただ職にいて、仕事をしない役に立たないこと」という意味もありますから、なんだか後ろめたい心地もしますね。

「尸位素餐（しいそさん）」は読んで字のごとしですが、その地位にありながら職責を果たさず、ただ俸禄だけを取っている、禄盗人のことです。略して「尸素（しそ）」ともいうそうです。
(引用終わり)

開発官付言；「屎尿」は総じて不要のもの、「尸位素餐」も結局その意味のようなものだ。「尸」という字を被らないようお互い気を付けよう。

以上